

4 粉剤散布時の飛散

ねらいと成果

粉剤散布時の飛散状況を明らかにし、飛散を防ぐ上で必要な知見を得ることを目指した。粉剤の飛散はダイズ（丹波黒）とイネ（ヒノヒカリ）で異なり、ダイズで大きくイネでは比較的小さかった。

内 容

2006年8月31日に傾穂期のイネに、同9月26日にダイズにエトフェプロックス（トレボン）粉剤DLをナイアガラホースを用いて10a当たり4kgを散布した。飛散状況を把握するために径8cmのシャーレを風下側1, 2, 5, 10mの地面に置いて落下量を調査した。風は0～1m/秒の無風に近い状態であった。落下量は両作物ともに距離に伴って低下したが、ドリフト量はイネよりもダイズで多くなった

(図)。これは葉（身）が直立したイネでは粉剤が作物の間に入り込みやすいのに対し、葉が水平に広がるダイズでは粉剤が入り込みにくいために、浮遊する粉剤量が多くなるためと推測された。

長田 靖之（農業技セ・病害虫防除部）
（問い合わせ先 電話：0790-47-1222）

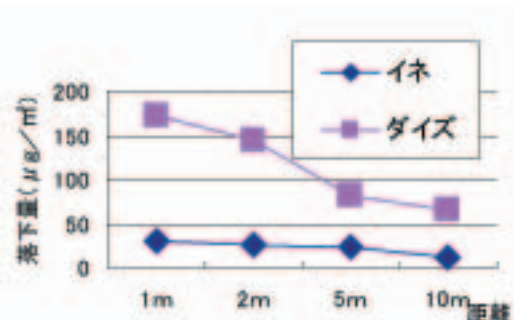


図 粉剤のドリフト

5 背負い式動力噴霧器によるドリフト改良ノズルの比較

ねらいと成果

けい畔処理用除草剤の本ほへのドリフトを確認するため、背負い式動力噴霧器で、グリホサート除草剤をけい畔へ処理した。その結果、風速2m/秒程度の微風であれば、飛散防止ガードなしの慣行ノズルを除いて本ほへのドリフトはみられなかった。

内 容

背負い式動力噴霧器で5頭口の噴霧竿を畦畔方向に固定して、散布圧2.0kg/cm²、散布高60cmでグリホサート除草剤を散布し、改良ノズル、慣行ノズルのドリフト状況を感水紙により比較した。

(1) 3種類の改良ノズルでは、無風～横風2m/秒程度の微風の時、いずれも本ほへのドリフトはみられなかった。

(2) 慣行ノズルではけい畔からほ場内1m付近まで

ドリフトがみられたが、その程度は極微であった。また、飛散防止ガードを付けることで、本ほへのドリフトは防止された。

留意点

散布中の風向・風速に注意するとともに、竿を振り回したりしない。

須藤 健一（農業技セ・作物・経営機械部）
（問い合わせ先 電話：0790-47-2410）

表 本ほ1m地点での飛散程度

ノズルのタイプ	風の状態	飛散程度
改良ノズル	横風微風	無
慣行ノズル(ガード付)	横風微風	無
慣行ノズル	横風微風	極微